

◆ グリホサートの IARC 評価に関連して（「食品安全情報」から抜粋・編集）
－オセアニア（2016年8月～2017年8月）－

「食品安全情報」(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>) に掲載した記事の中から、グリホサートの IARC 評価に関連する記事を抜粋・編集したものです。

他の地域/機関の情報については下記サイトをご参照下さい。

「食品安全情報（化学物質）」のトピックス

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/chemical/index-topics.html>

公表機関ごとに古い記事から順に掲載しています。

- オーストラリア農薬・動物用医薬品局（[APVMA](#) : Australian Pesticides and Veterinary Medicines Authority）
- ニュージーランド環境保護庁（[NZ EPA](#) : New Zealand Environmental Protection Authority）

記事のリンク先が変更されている場合もありますので、ご注意ください。

● オーストラリア農薬・動物用医薬品局 (APVMA : Australian Pesticides and Veterinary Medicines Authority)

1. 規制上の立場：グリホサートの公式再検討のための根拠の検討

Regulatory position: consideration of the evidence for a formal reconsideration of glyphosate

SEPTEMBER 2016

<http://apvma.gov.au/sites/default/files/publication/20701-glyphosate-regulatory-position-report-final.pdf>

「食品安全情報」 No.22 (2016)

2015年7月のIARCモノグラフ112の発表を受けて、グリホサートの再検討について検討した。結論として公式に再検討を行う科学的根拠はない。APVMAは科学的な根拠の重み付けによりグリホサートへの暴露はヒトへの発がんリスクはないと結論している。

2. APVMAはグリホサートを公式に再検討する理由はないことを発見

APVMA finds no grounds to place glyphosate under formal reconsideration

23 March 2017

<http://apvma.gov.au/node/26636>

「食品安全情報」 No.7 (2017)

国際がん研究機関 (IARC) が提示した懸念を受けて、APVMAはグリホサートの使用に関連するヒト健康リスクの詳細評価を行い、完全再検討は必要ないと決定した。

APVMAは、保健省から委託されたIARCモノグラフのレビュー、他国の規制機関や国際専門家委員会によるリスク評価を含む根拠の重み付け評価を行った。

APVMAはオーストラリアでのグリホサートの使用はヒトがんリスクとはならず、グリホサートを含む製品はラベルの指示に従って使えば安全であると結論した。グリホサートの再検討をする科学的根拠はなく、APVMAは新しい情報を監視し続ける。

ヘルスカナダ、EFSA、ECHA、NZ EPA、US EPA、JMPRは全てグリホサートを最近評価し、ヒトがんリスクとはならないと結論している。

3. オーストラリアにおけるグリホサートの規制

Regulation of Glyphosate in Australia

3 August 2017

<https://apvma.gov.au/node/27261>

「食品安全情報」 No.17 (2017)

グリホサートは世界で最も広く使われている除草剤である。農業や家庭用、商業用に使われている。2016年にIARCがグリホサートを「おそらくヒト発がん性」と分類した報告を発表した。この分類はリスク評価というよりハザード評価に基づく。APVMAはこの分類によりオーストラリアでのグリホサートの安全性、登録、使用に関していくつかの懸念が提示されていることを承知している。

我々は最近IARC報告やその他の関連科学文献の包括的レビューを行い、現時点ではグリホサートの登録を再検討する科学的理由はないと結論した。さらなる情報は以下のウェブサイトを参照。

***Glyphosate**

<https://apvma.gov.au/node/13891>

APVMAは評価を完了し、オーストラリアでのグリホサートの使用はヒトへのがんリスクがないと結論している。従って、グリホサートを含む製品はラベルの指示通りに使用すれば安全である。オーストラリアではグリホサートを含む約500製品が登録されている。

● ニュージーランド環境保護庁 (NZ EPA : New Zealand Environmental Protection Authority)

1. グリホサートについて

Learn about glyphosate

August 2016

http://www.epa.govt.nz/hazardous-substances/pop_hs_topics/glyphosate_learn/Pages/default.aspx

「食品安全情報」 No.17 (2016)

グリホサートは雑草管理のために広範に使用される除草剤であり、EPAが国内での使用を認可している。

EPAが前ニュージーランド国立中毒センター長の毒性学者 Wayne Temple 博士に委託したグリホサートのレビュー報告書が発表された。このレビューではIARC報告書で考慮された試験だけでなく、IARCは考慮しなかったもののEFSAや米国EPA、JMPRでは評価された他の試験についても考慮している。

結論として、グリホサートの発がん性に関する根拠のレビューでは、グリホサートに遺伝毒性やヒト発がん性はありません。発がん物質や変異原性物質と分類する必要はない。報告書および要約が本ウェブサイトよりダウンロード可能。

最終更新：2022年10月

国立医薬品食品衛生研究所安全情報部

食品安全情報ページ (<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/index.html>)